

第4回 阿佐東線DMV導入協議会

平成31年1月28日(月) 16:00～
徳島県庁 10F 大会議室

【報告】

①DMV車両の愛称・デザインの決定

【議事】

- ①これまでの審議内容
 - ・「DMV導入」の目的
 - ・「DMV導入」の合意事項
- ②平成30年度 of 取組み
- ③協議事項
 - ・事業費の見込み
 - ・平成31年度 of 取組み
 - ・全体スケジュール



①これまでの審議内容

「DMV導入」の目的

① 阿佐東地域の活性化に貢献

- DMVは、「車両自体が観光資源」となることから、「新たな人の流れ」をつくり観光振興に大きく寄与



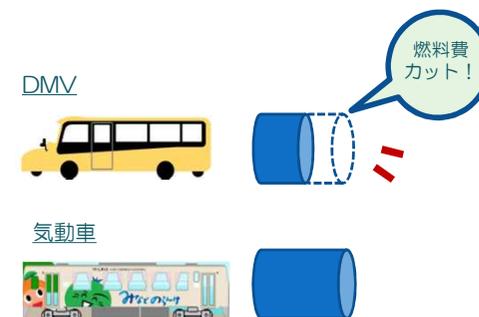
② 地域公共交通の維持・充実に貢献

(1) シームレスな交通体系の実現

鉄道とバスのシームレスな交通体系の構築は、高齢化が進む阿佐東地域に最適

(2) 阿佐海岸鉄道(株)の経営改善

DMVは、現行のディーゼル車と比較し燃費が良く、維持費の削減に期待



③ 防災面の強化

DMVは、「南海トラフ巨大地震」などの大規模災害発生時において、残った線路と道路をつなぐことで「交通機能の維持」が図れ、被災者支援をいち早く行うことが可能



「DMV導入」の合意事項

■ 鉄道部の運行区間は、「阿波海南駅」－「甲浦駅」間とする。

- ・「阿波海南駅」と「甲浦駅」に「MIC※」を整備する。
 ※モード・インターチェンジ。走行モードの切替施設。
- ・阿佐海岸鉄道による「バスモード運行」を目指す。

JR牟岐線・
阿波海南～海部間を編入

■ 当面の計画としては、3台のDMV車両を製作する。

- ・「車両製作」は、平成29年度に発注し、平成31年度までに3台の完成を目指す。
- ・「駅舎の改築」「信号設備の整備」は、「車両製作」と並行して実施する。

■ 「2020・東京オリンピック・パラリンピック」の年の運行を目指す。

■ 運行開始を見据えた「イベント」を実施し、機運の醸成を図る。



②平成30年度の取組み

平成30年度の取組み

○車両製作

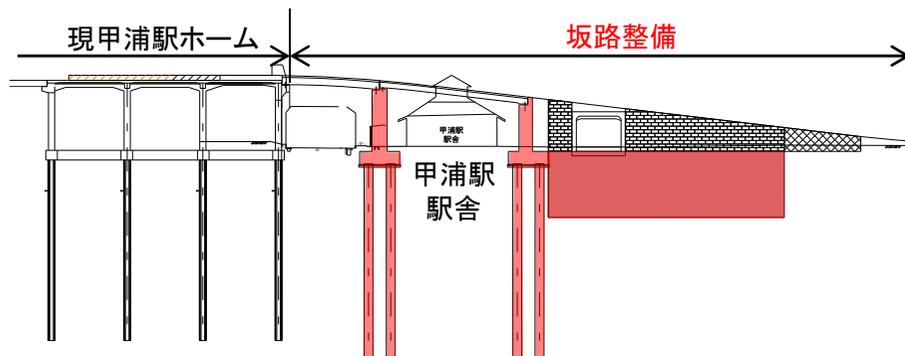
- ・「愛称」「デザイン」を公募
- ・1台目の製作が完了見込み
- ・2台目、3台目を発注

H31.3月
お披露目イベント開催



○駅舎改築

- ・平成30年秋から
甲浦駅の坂路(線路と道路の接続部分)の
下部(橋脚など)工事に着手



甲浦駅坂路縦断図

○信号設備等

- ・「DMV運転保安システム」の整備に着手
- ・JR牟岐線(阿波海南駅-海部駅間)の
阿佐東線への編入に向けた調整

○バスモードの検討

- ・関連自治体や交通事業者などと、
「バス運行ルート」や「運行形態」を検討



○機運の醸成(DMVイベント)

- ・「ウェイクボード世界選手権」の会場などにおいて、
JR北海道の試作車を用いた
展示・試乗会を実施



③協議事項

事業費の見込み①

当初事業費

○約10億円

◆ 車両製作 : 3.6億円

- ・ベース車両3台を購入し、線路走行ができるよう車両を改造



ベース車両・納車検査の様子



◆ 駅舎改築 : 2.8億円

- ・線路・道路の接続施設、DMV用ホームの設置



甲浦駅



MIC(モード・インター・チェンジ)

◆ 信号設備等 : 3.6億円

- ・「自動列車停止装置」や「車内信号設備」など、DMVの安全運行に必要な「DMV運転保安システム」の整備

※第3回導入協議会(H29年3月)で決定

- ・JR牟岐線の阿波海南～海部間の譲受に伴う経費



事業費の見込み②

事業費変更の主な要因

車両製作

- DMV車両については、既にJR北海道において、走行試験が実施されていたことから、「**車両の性能試験**」は不要と考えていたが、営業運行に向け関係者と調整を進める中でベース車両がフルモデルチェンジされたことに伴い、実施が必要となった。



駅舎改築

- 甲浦駅の線路と道路を結ぶ「**坂路工事**」に着手したところ、想定以上に地盤状態が悪く、「**地盤改良工事**」が必要となった。



信号設備等

- 駅ホームで線路を横断する人の安全対策として、車両の接近を注意喚起する「**車両接近装置**」が必要となった。



事業費の見込み③

信号設備等(DMV運転保安システム)

- 当初は「スタッフ閉そく式」※1による運行管理を考えていたが、営業運行に向け関係者と調整を進める中で、車両が本来停止すべき位置を通過するような非常時対応の観点から、「自動列車停止装置」の機能を備えた「DMV運転保安システム」※2の導入が必要となった。
 - ※1 スタッフ(通票)を持つ車両のみが出発できる方式
 - ※2 鉄車輪の回転数等により車両の位置を把握し、携帯電話の電波を利用して駅司令に通信するシステム
- 「DMV運転保安システム」は、既にJR北海道において、走行試験が行われていたが、フルモデル・チェンジしたベース車両や、阿佐東線の特徴(トンネルが多い等)に対応するため、「**詳細設計費・性能試験費**」が必要となった。

変更後の見込み

○約13億円

- ◆ 車両製作 : 3.9億円 (当初額比+0.3億円)
- ◆ 駅舎改築 : 3.3億円 (" +0.5億円)
- ◆ 信号設備等 : 5.8億円 (" +2.2億円)

- 今後の対策として、
「工事」や「性能試験」等における**経費削減**に努める。

平成31年度の取組み

～運行開始1年前～

ハード整備の”総仕上げ”、ソフト面の最終的な調整を推進!!
ハード整備が進む中、地域を巻き込んだ取組みを実施!!

ハード整備

- ・DMV車両全3台、MIC(モード・インター・チェンジ)、
 駅ホームなどの「施設整備」
 ⇒施設整備完了後は、阿佐東線でのテスト走行に着手

関係企業
との連携

概ね完成

JR牟岐線編入

- ・「阿波海南～海部」間の譲受手続き、信号設備の改修

関係者との
調整

法令手続き
等を推進

バスモードの検討

- ・バスモード「運行ルート」を調整

地域や事業者
との調整

「事業計画」
を策定

機運の醸成

- ・完成した車両を活用したPRなど

より幅広い層
への浸透

イベントの
実施

全体スケジュール

項目	概算事業費	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度
車両製作	約3.9億円		デザイン公募 車両製作	性能試験	試験走行 運転訓練
駅舎の改築 (MIC・ホーム等)	約3.3億円	詳細設計	本工事		
信号設備等 の整備	約5.8億円	検討・設計など	施設整備		性能試験
JR牟岐線の編入		協議		法令手続き	
バスモードの検討	—	運行計画 検討	「関係自治体」「既存事業者」 などとの調整	事業計画 策定	事業申請 → 認可
機運の醸成 (DMVイベント)	—	DMV わくわくイベント	DMVわくわくイベント (継続)	DMV運行直前 イベント	完成車両 を活用

東京オリンピック・パラリンピック
運行開始

「2020年」の本格的営業運行に向け、着実に推進!!